

2020年度 クラスター・モジュール活動報告書

クラスター名	資源循環クラスター
クラスター長名	笹木 圭子

1. 活動内容・達成目標・研究成果

Mission/Vision			
<p>アジア・オセアニア地域における資源・環境循環型社会システムの構築をめざし、以下の研究活動を行っています。</p> <p>(1)開発対象外鉱石および都市鉱山からのバイオテクノロジーを活用した有価金属の回収技術イノベーション (2)未利用鉱石中の忌避元素と有価金属の分離技術の開発および忌避元素の固定化技術開発 (3)未利用鉱物の機能性環境浄化剤としての開発研究(光触媒複合体における粘土鉱物の役割の解明) (4)後発ASEAN諸国、南アジアにおける持続的な鉱物資源開発のための資源政策・鉱山開発技術の確立および資源開発リスク評価法の確立 (5)アジア天然素材(動植物・微生物・昆虫・農林畜水産物・鉱物・民間伝承情報・生物多様性情報など)の機能探索と社会実装</p>			
担当モジュール	具体的な活動内容	2020年度中の達成目標	2020年度中の研究成果(達成状況)
資源循環モジュール	2020年度は豪州カーティン大学との共同研究を開始し、炭素質金鉱石バイオ処理技術の開発にあたっての協力関係を構築する。	カーティン大学との炭素質金鉱石に関する共同研究(科研国際(B))を進め、共著論文の作成を目指すとともに、2020年度中には部局間協定を締結する。	炭素質金鉱石に関する共同研究は、先方の都合によりこちらの要望する観察が困難となったため、可能な機関を探しだし、現在豪州南オーストラリア大学に九大が作成した観察試料を送っている段階である。南オーストラリア大学とは本件に関して定期的遠隔会議を開始した。 当初2020年度中に豪州カーティン大学との部局間協定の締結をめざしていたが、12月に先方から、大学間協定に拡張したいとの申し出を受け、Q-AOSが初めての提案部局となって2021年度に大学間協定として締結を進める運びとなった。
資源開発モジュール	②各種金属鉱山の環境負荷低減型坑内掘開発を目指し、2020年度はミャンマー、ラオス、インドを重点的に現地機関との協力関係を構築する。	ミャンマー、ラオス、インド等の現地訪問調査を行い、現地機関との協力に係る取り決めを交わす。	ミャンマー、ラオス、カンボジアとオンラインによるウェビナーを開催し、情報交換を行うとともに協力関係構築の為の協議を行った。

<p>機能性天然素材開発モジュール</p>	<p>③ TEMDEC (アジア遠隔医療開発センター) のサポートも受けて、コロナ自粛・閉鎖下でも実施可能な、完全オンライン・各個人PC からの参加での学際的内容に富んだアジア天然物国際会議を3 か月に一度のペースで実施する。アジアの機能性天然物関連の研究者と企業の連携を強める。また、アジアの天然物に強みのある国内外各大学とのネットワークを強化する(交流協定)。 科研国際基盤(B)等、国際的なプロジェクトへの申請を進める。アジア天然素材研究者と連携し、ニーズの高い機能性素材・成分の探索(例えば、抗コロナウイルス活性など)システムの構築を目指す</p>	<p>5月21日 TEMDEC のサポートを受け、1st Asian Natural Product Conference をオンラインで開催する。2020 年度に4 回開催する。また、アカデミアの連携のみならず、企業の参加も募り、産学連携活動の活性化、社会実装を目指した企業との複数の共同研究を開始する。 Universitas Negeri Surabaya (Surabaya, インドネシア) との部局間交流協定等、複数の大学との新たな協定を締結する。また、国内の JASTIP などのアジアを中核とするプロジェクトともネットワークを構築する。 2019 年度に交流協定を締結しているムラワルマン大学(インドネシア)、ITS(インドネシア) との共同研究を活性化し、複数の論文を執筆する。 科研国際基盤(B)等、国際的なプロジェクトへの採択を成し遂げる。 オンライン国際会議の開催を通してアジア天然素材機能性開発ネットワークを構築し、各国でニーズの高い機能性(抗コロナウイルス活性、認知機能改善、抗メタボリックシンドローム等)に着目した機能性探索研究を行い、複数の機能性素材・成分を見出し、特許化・論文化する。</p>	<p>2020 年度は、5 回、Asian Natural Products Conference (Q-AOS) を開催した(https://www.anpc.jp/index.html) (第一回:5月21日、第二回:9月4日、第三回:10月8日、第四回:12月16日、第五回:2月26日)。シンガポールの Delightex Pte. Ltd. や、ベトナムに本社を有する HSC Japan など産業界からの参加、講演もあり、産学共同研究へと発展しつつある。アジアのみならず、アフリカからの発表者もありグローバルなネットワークづくりのためのプラットフォームになりつつある。九州大学大学院農学研究院、大学院生物資源環境科学府及び農学部とユニベルシタスネグリスラバヤ大学(Universitas Negeri Surabaya) (インドネシア) との学術交流協定及び学生交流協定も締結された。 京都大学を中心とした JASTIP との連携も進めているが、コロナ禍のため直接的な国際共同研究の具体的な活動は進展しなかった。 2019 年度に協定を結んだムラワルマン大学(インドネシア)の国際共同研究共著として、3 報の査読付き論文が出版された。 アジアオセアニア圏の国際共同研究共著論文は6 報であった。 科研国際基盤(B)の申請は行ったが不採択であった。</p>
-----------------------	---	---	---

2. クラスター・モジュール研究教育活動状況

項目	件数
クラスター・モジュール主催イベント	6件
クラスター・モジュール共催イベント	0件
共同研究	8件
単著論文	0件
共著論文	22件
学会発表（国内）	11件
学会発表（海外）	17件
交流関係	4件
教育活動（うち、学位審査インド2件）	4件
協定	2件
	件
	件

2020年度 クラスター・モジュール活動報告書

クラスター名	生存基盤環境クラスター
クラスター長名	荒谷 邦雄

1. 活動内容・達成目標・研究成果

Mission/Vision			
<p>近年における想定外の気候変動と急激な生物多様性の喪失によって引き起こされる様々な問題を解決するために以下の研究活動を行っている。</p> <p>(1) 環境変動に対する生物の応答、適応機構の分子レベルでの解明</p> <p>(2) アジア・オセアニア地域の生物多様性の解明とその保全、生態系の機能や生態系サービスの持続的な利用</p> <p>(3) 汎太平洋な気象・海洋データの観測・監視システムの構築に基づいて地球環境変動への具体的な対応</p> <p>(4) 各国の温室効果ガスの削減、低炭素型社会の実現のためのガバナンス手法の確立</p>			
担当 モジュール	具体的な活動内容	2020 年度中の達成目標	2020 年度中の研究成果 (達成状況)
生存基盤環境 クラスター		Q-AOS シンポジウム「感染症と生きる：コロナから学ぶ持続可能な社会とは」基調講演（国立環境学研究所五箇博士の招へい）や若手研究者による発表・討論に尽力する。	Q-AOS シンポジウム「感染症と生きる：コロナから学ぶ持続可能な社会とは」基調講演（国立環境学研究所五箇博士の招へい）や若手研究者による発表・討論に尽力した
生存基盤環境 クラスター（環境経済・経営モジュール）		2020 年 9 月に SNU-KYUSHU JOINT SYMPOSIUM のサテライトセッション「Spatial and Environmental Economics」をソウル大学の Euijune Kim 教授と共同企画・開催する。	2020 年 9 月に SNU-KYUSHU JOINT SYMPOSIUM のサテライトセッション「Spatial and Environmental Economics」をソウル大学の Euijune Kim 教授と共同企画・開催した。
生存基盤環境 クラスター（セキュリティ・防災クラスターと共同）		大型科研プロジェクト「水共生学」の研究計画の打ち合わせや研究組織の決定を経て申請する。	大型科研プロジェクト「水共生学」を学術変革領域研究（A）に申請（領域代表者：荒谷）し、ヒアリング対象に選定された。
生物・ 文化環境 モジュール	タイ・チュラロンコン大学、台湾・台北市動物園、ベトナム国立自然史博物館、カンボジア水産局との共同研究を進める。	ベトナム国立自然史博物館の PHAM, Hong Thai 准教授の JSPS 外国人招へい研究者（長期）申請を行う。 また、2020 年 11 月より学術研究員を雇用し、これまでの海外共同調査での採集サンプルの整理と解析を行う。	ベトナム国立自然史博物館の PHAM, Hong Thai 准教授が JSPS 外国人招へい研究者（長期）に採用された（新型コロナの感染拡大のために、2021 年度末に来日予定）。 ラオスの甲虫の新種記載論文を国際誌に公表した。

		琉球列島や北海道など国内の希少種保全ネットワークを構築する。	奄美、沖縄、八重山諸島で希少種保全活動を展開した。沖縄島では樹洞性の絶滅危惧甲虫に対する生息域内保全作業も実施した。
地球・生物圏環境 モジュール	台湾（台湾海洋科技研究中心、国立中山大学、国立成功大学）、タイ（チュラロンコン大学、ブラパー大学、JICA タイ事務所）研究機関との共同研究を進める。	タイのドローン観測で使用するセンサーの軽量化開発と、そのテストを鹿児島大学と共同で実施する。	ドローンに搭載するセンサーの軽量化開発を行った。さらに、鹿児島大学と共同で、センサー取り付け位置による飛行性能の変化を評価した。また、鹿児島県内の寺島公園でドローン観測実験を実施した。
環境経済・経営 モジュール	SDGs（持続可能な開発目標）と震災復興の両立に向けた政策分析を実施する。	SDGs（持続可能な開発目標）と震災復興の両立に向けた政策分析ワークショップをオンラインで開催する。	SDGs（持続可能な開発目標）と震災復興の両立に向けた政策分析ワークショップをオンラインで開催した。
分子・生命 環境 モジュール	マレーシア・マラヤ大学との共同研究を進める。	九州山口沖縄リズム研究会で共同研究の成果を発表する。	2020年8月に九州山口沖縄リズム研究会（オンライン）で共同研究の成果を発表した。
		2020年11月より学術研究員を雇用し、熱帯原産植物を含む非モデル植物への遺伝子変異導入プロトコルの確立を行う。	モデル植物シロイヌナズナへの遺伝子変異導入プロトコルを確立した。

2. クラスター・モジュール研究教育活動状況

項目	件数
クラスター・モジュール主催イベント	0件
クラスター・モジュール共催イベント	1件
共同研究	5件
単著論文	4件
共著論文	23件
学会発表（国内）	3件
学会発表（海外）	0件
交流関係	1件
教育活動	2件
協定	0件

2020年度 クラスター・モジュール活動報告書

クラスター名	都市クラスター
クラスター長名	尾崎 明仁

1. 活動内容・達成目標・研究成果

Mission/Vision			
<p>環境・社会・居住など問題に対する総合的な課題の解決を見据えて、アジア・オセアニアにおける都市研究分野の教育研究拠点の形成、そしてアジアの多元性、多様性、移動性を重視し、長期的に取り組むべき新しい課題の発見、新研究領域の創出及び国際人材の育成を目指している。本年度では、ポスト・コロナなどの社会的情勢を意識しながら、感染症や医療施設の配置などをはじめとする医療と都市に関連するテーマを複数のモジュールまたはグループで取り上げ、アジア・オセアニア地域での情報と技術の共有を図り、また既に予定していた研究テーマも同時に推進しながら、国際共同研究及び協力関係の構築をめざし、以下の研究活動を行う。</p> <p>(1) 新型コロナや感染症の対象及び医療施設に関する研究を喫緊の課題として取り上げ、複数グループでの共同研究を推進する。</p> <p>(2) 中長期の展開を見据えて、アジア・オセアニア地域の大学・研究機関との連携体制・協力関係を構築し、またそれに伴う部局間交流協定の締結を目指す。</p> <p>(3) 「参加型まちづくりと感染症」をテーマとする国際シンポジウム及び関連する研究交流会の開催を予定している。</p>			
担当 モジュール	具体的な活動内容	2020年度中の達成目標	2020年度中の研究成果 (達成状況)
Planning & Design 坂井教授、 趙教授	医療系施設や福祉系施設の計画的な配置による医療資源の再配分及び地域における医療機関の連携体制の構築により住み慣れた地域で安心して暮らすことができるような医療施設の最適配置及びその実現方法を開発する。	限られた医療資源の適正な配置と医療機能の連携を推進し、「健康・医療・福祉のまちづくり」の実現に寄与できる社会実装技術としてアジア諸国で共有することを目指す。	福岡市を対象に、医療圏の人口分布に基づく病院の適正配置に関する研究をとりまとめ、医療資源の適正な配置と医療機能の連携に関する知見を得ることができた。
Mega Region 相澤准教授	バイOMETRICS を用いた、広域メガリージョンにおける人口管理テクノロジーの浸透についての包括的な研究を実施する。	アジアにおけるバイOMETRICS 行政について、バンコクの国立開発行政研究院 (NIDA) との協力に係る体制構築を行う。	2020年度はコロナ禍の影響で当初計画していた研究実施のための体制構築業務はやむを得ず延期。 代わり、米国ジョージメソン大学、チュラロンコン大学らとともに、バイOMETRICS等のデジタル技術を用いた都市行政手法の浸透による新たな社会・人権問題にかかる研究プロジェクトの立ち上げ、国際論文誌 (Frontiers of Sociology) の

			特集号として採用決定。
Global History 井上准教授	1)アジア・オセアニアの大学とポスト・コロナの都市研究について協力関係を構築する。 2)インド・コルカタのジャダフプール大学との共同研究を開始し、インドへの鉄の流れの解明にあたっての協力関係を構築する。 3)葉祥栄のデジタル・アーカイブズの構築のため、ニュー・サウス・ウェールズ大学構築環境学部コンピューショナル・デザインユニット(Code)と共同研究を推進する。	1) ブータン王立大学、キルギス国立建設交通大学などの大学との部局間交流協定の締結を目指す。 2) コルカタのジャダフプール大学建築学部との共同研究を進め、2020 年度中には部局間協定を締結する。 3) ニュー・サウス・ウェールズ大学と共同でシンポジウムを開催する。	1)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた福岡での対面での交流ができず、2021 年度に持ち越した。 2)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していたコルカタでの共同研究が実施できなかった。共同研究の開始および協力関係の構築は 2021 年度に持ち越した。 3)Code との共同研究は、オンラインで実施した。 また、国内共同研究者による連続講義をレクチャー・シリーズとして、オンラインおよび対面の併用で実施した。 新型コロナウイルス感染拡大の影響のため展覧会及びシンポジウムは年度をまたぐこととなったが、その成果を6月のVR展および、11月のシドニーでの展覧会で公開予定であり、それに合わせてオンラインでのシンポジウムも計画している。
Governance 出水教授	「参加型まちづくりと感染症」をテーマとする日韓のシンポジウムを開催する。	感染症の対策の一つとしての参加型まちづくの方法と在り方の共有を図る。	2020 年 11 月 26 日に遠隔により日韓の参加者により、シンポジウムを実施した。
Inclusive Wealth 馬奈木教授	豪州クイーンズランド工科大学との共同研究を開始し、都市評価モデルの開発にあたっての協力関係を構築する。	豪州クイーンズランド工科大学との共同研究を進め、2020 年度中には都市評価モデルの開発をし終える。	豪州クイーンズランド工科大学との共同研究を進め、2020 年度中には都市評価モデルの開発を完了した。

2. クラスター・モジュール研究教育活動状況

項目	件数
クラスター・モジュール主催イベント	1件
クラスター・モジュール共催イベント	1件
共同研究	3件
単著論文	1件
共著論文	28件
学会発表（国内）	0件
学会発表（海外）	7件
交流関係	7件
教育活動	3件
協定	3件
	1件
	1件

2020年度 クラスター・モジュール活動報告書

クラスター名	医療・健康クラスター
クラスター長名	清水 周次

1. 活動内容・達成目標・研究成果

Mission/Vision			
<p>医療の地域格差解消や、生活水準の向上に伴う疾患増大への対応など、少子高齢化、都市化、国際化等を踏まえた健康寿命の延伸に向けた研究教育を推進します。</p> <p>(1)情報通信技術を駆使し、医療知識や経験を効率的かつ経済的な手段で共有します。</p> <p>(2)予防医療事業を展開し、無医村など医療過疎に由来する健康格差を改善します。</p> <p>(3)高齢者の健康・福祉を取り巻く法制度や社会環境を調査し、政策提言を導きます。</p>			
担当 モジュール	具体的な活動内容	2020 年度中の達成目標	2020 年度中の研究成果 (達成状況)
遠隔医療モジュール	ミャンマーにおける医療水準の均霑化を目指した人材育成	内視鏡と外科を中心とした実地研修に加え、遠隔教育を目的とした技術研修を開催する。	ミャンマー医学会の年次集会内で内視鏡と外科に関するセッションをオンライン開催し、それぞれ 100 名、80 名の参加があった。
遠隔医療モジュール	ロシアにおける医療環境の改善と生活の質の向上	予防医療と早期診断を目的とした臨床研修に加え、遠隔教育プログラムを継続的に開催する。	内視鏡に関するテレカンファレンスを 2 度行い、のべ 53 名の参加があったほか、乳がん、子宮がん、前立腺がん、脳卒中、循環器疾患、健診など多岐に渡るウェビナーを開催した。
遠隔医療モジュール	中南米における早期胃癌診断率向上のための継続的遠隔医療教育システムの構築	日本における臨床研修を実施すると共に、遠隔教育プログラムによる指導を継続する。	中南米各国を接続したテレカンファレンスを 2 度開催しのべ 203 名の参加があったほか、メキシコやペルーへ 2 回ずつウェビナーを行った。
遠隔医療モジュール	国内外における遠隔医療教育プログラムの推進	アジアを中心に、遠隔医療教育プログラムを新たな領域、新たな地域へと拡大する。	2 度のアジア太平洋先端ネットワーク会議でそれぞれ 15 の医療セッションを企画し、国立台湾大学とアジア遠隔医療シンポジウムを開催した。2020 年度は 171 件の遠隔医療教育を行い、新たに 39 カ国の 315 施設が参加した。
PHC モジュール	バングラディッシュにおける COVID-19 等感染症や母子保健を含む災害時健康維持シス	バングラディッシュで 1,000 人の被験者に対し COVID-19 に関する質問票によるサーベ	被験者 300 名からのアンケートデータを解析、報告書を作成して 2020 年に国際

	テムの実証研究	イを実施。データを収集、解析、論文作成。	誌 "International Journal of Environmental Research and Public Health" で発表。タイトルは "Redesigning Portable Health Clinic Platform as a Remote Healthcare System to Tackle COVID-19 Pandemic Situation in Unreached Communities".
PHC モジュール	マレーシア、インドネシア、インドにおける医療サービスアクセス向上のための ICT を活用した生活習慣病予防遠隔医療システムの協働研究事業	マレーシア、インドネシア、インドにおける協働研究者やステークホルダーとのオンラインによる遠隔会議、セミナー、ワークショップ他、シンポジウム招聘の実施。	マレーシア、インドネシアの共同研究者と毎月オンライン会議を実施。合同セミナーを 2020 年 9 月、2021 年 2 月に実施した。マレーシア側とは SATREPS 申請に向け協議中。インドネシアとは PHC 被験者 300 名のデータ解析と論文にむけ協議中。
PHC モジュール	中国・貴州省における生活習慣病ビッグデータ解析プロジェクト	中国・貴州省疾病予防センターの共同研究者らとオンラインによる遠隔会議、セミナー、ワークショップの実施他、研究交流活動の実施。	中国と日本の政治的関係悪化をうけ、オンラインによる小規模のインフォーマルな会議を 2020 年度に 3 回実施した。
エイジング・モジュール	東アジア及び一部東南アジア諸国における、高齢者就労を促す公共政策の成果と展望を議論する国際比較研究	国際学会 The Gerontological Society of America 2020 Annual Scientific Meeting (Montréal, Québec, Canada) での研究発表。	モジュールメンバーと共同で研究発表済み (学会自体がオンライン開催となったため現地への渡航はなし)。
エイジング・モジュール	オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、台湾、韓国及び日本における退職制度の改定の効果を分析する国際比較研究	国際学会 Global Summit on Geriatrics and Gerontology 2020 Annual Meeting (Toronto, Canada) での研究発表。	モジュールメンバーと共同で研究発表済み (学会自体がオンライン開催となったため現地への渡航はなし)。
エイジング・モジュール	これまでのアジア諸国における高齢者の継続就労に関する国際共同研究を纏めた国際学術著書の初稿作成の完了	学術書「Older Workers and Retirement in a Hyper-Aged Japan(仮)」の初期原稿を Bristol University Press(UK) 出版社へ提出	提案書の原稿第一弾を先出版社に提出し、現在レビュー及び内容に関する協議中。
エイジング・モジュール	これまでのアジア諸国における公的年金および退職に係る制度・慣行に関する国際共同研究を纏めた国際学術共著の提案書作成完了	学術書「Ageing in Asia and Oceania: Policy Challenges and Future Prospects(仮)」の提案書を Routledge(US) 出版社へ提出、および交渉	提案書の原稿第一弾を現在作成中。および左記出版社との内容と構成に関する交渉中。
エイジング・モジュール	日本の高齢者継続就労に掛かる政策的取り組みの成果と課題を国際比較の観点から分析する学術論文の作成完了	学術論文「Delaying Retirement in Japan: An International Perspective(仮)」をエイジング分野の社会科学系学術誌 Ageing International へ投稿	論文の提出をし、学術誌の要求に応え現在一回目の加筆修正中。

エイジン グ・モジュ ール	University of Maryland Baltimore County のエイジン グ研究センターとのネットワ ーキングと共同研究活動の交 渉	米国立科学財団(NSF)及び国 立研究開発法人科学技術振興 機構(JST)が公募する研究支援 制度に共同申請	米国立科学財団(NSF)での研 究計画が採択され、現在国立 研究開発法人科学技術振興 機構(JST)に向けた計画書の 作成に協力中。
エイジン グ・モジュ ール	本学の国際教育プログラムへ の出向講義を通じて、アセアン 及び東アジアにおけるエイジ ング関係の社会問題に関して、 講義及び研究指導	本学の国際教育プログラム ASEAN in Today' World (AsTW) 2020 にて、選択科目 「Current Affairs of ASEAN and East Asia」の授業展開およ び研究指導	左記プログラムがオンライ ン実施となるに従い、大幅な 内容の変更が行われたため、 授業展開および研究指導の 機会はなくなった一方、別の 国際教育プログラムにて同 様の活動を展開した。

2. クラスター・モジュール研究教育活動状況

項目	件数
クラスター・モジュール主催イベント	64件
クラスター・モジュール共催イベント	26件
共同研究	13件
単著論文	3件
共著論文	44件
学会発表（国内）	14件
学会発表（海外）	51件
交流関係	2件
教育活動	79件
協定	3件
	件
	件

2020年度 クラスター・モジュール活動報告書

クラスター名	セキュリティー・防災クラスター
クラスター長名	鬼丸 武士

1. 活動内容・達成目標・研究成果

Mission/Vision			
<p>アジア・オセアニア地域における様々な安全保障上課題と災害の原因とその解決を目指して活動をおこなっています。具体的な課題としては以下の4点を取り上げています。</p> <p>(1) 越境犯罪や人身売買、感染症といった非伝統的安全保障問題</p> <p>(2) 情報通信技術の急激な進歩がもたらす影響</p> <p>(3) 高齢化や都市化などによって引き起こされる社会や経済、政治の不安定化</p> <p>(4) 地震や津波、火山の噴火、台風、洪水、豪雨などによる災害の予防と被害の軽減、災害からの復興</p>			
担当 モジュール	具体的な活動内容	2020年度中の達成目標	2020年度中の研究成果 (達成状況)
セキュリ ティー・モジ ュール	近代以降のアジアの公衆衛生、警察、サーベイランスの実態に関するオックスフォード大学との共同研究をすすめる。	これまでの研究成果として英文編著の出版、今後の研究計画、特に新型コロナに関連する感染症に関する研究計画の検討をおこなう。	新型コロナウイルス感染症によるパンデミックのため、オンラインでの打ち合わせを中心に活動を実施した。現在、英文編著の編集作業を進めているところである。
セキュリ ティー・モジ ュール	海域アジア世界における安全保障とガバナンスに関する共同研究をすすめる。	小樽商科大学や国立民族学博物館などに所属する研究者と対象となる地域やテーマを選定し、合同フィールド調査を実施する。	小樽などの港市をフィールドに、港市の歴史や感染症対策、治安秩序維持などをテーマに共同研究を進めている。生存基盤環境クラスターとの共同研究。
セキュリ ティー・モジ ュール	アジアのセキュリティー・ガバナンス課題に対するデータ分析手法の確立を目指す国際共同研究を開始する。	インスブルック大学から研究者を招聘し、アジア言語を用いたデータ分析手法を確立する。	新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため、2021年度に延期。
セキュリ ティー・モジ ュール	アジアの都市化が引き起こす社会、経済、政治不安の現状とその解決策に関する研究をおこなう。	都市化とセキュリティーに関する国際ワークショップを開催する。	新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため、2021年度に延期。
防災モジ ュール	災害からの復興にコミュニティーやネットワークが果たす役割に関する実証研究をおこなう。	熊本県を対象に地震などの災害復興に関する実証研究をおこなう。	熊本震災を事例とした、教育ツールの開発、コミュニティーベースの災害復興に関する調査研究を実施している。
防災モジ ュール	自然災害で損傷した歴史遺物の復元に関する研究をおこなう。	主に九州地域の歴史遺物を対象に、自然災害の被害の実態調査と、その復元をめぐる課題に	新型コロナウイルス感染署によるパンデミックのため、実際のフィールド調査の

		ついて研究をおこなう。	実施は出来なかったが、現場での研究教育モデル構築に向けた準備を進めている。
セキュリティー・モジュール、防災モジュール	東アジア、東南アジア地域を対象に、オンサイト・オンデマンド教育を実践する。	九州大学の学部生、大学院生を対象に、東アジア、東南アジア地域でのセキュリティー・防災をめぐる課題を現場で検討する教育モデルを構築する。	新型コロナウイルス感染症のパンデミックのため、2021年度に延期。

2. クラスター・モジュール研究教育活動状況

項目	件数
クラスター・モジュール主催イベント	0件
クラスター・モジュール共催イベント	0件
共同研究	0件
単著論文	0件
共著論文	0件
学会発表（国内）	0件
学会発表（海外）	0件
交流関係	2件
教育活動	0件
協定	0件
	件
	件

2020年度 クラスター・モジュール活動報告書

クラスター名	文化変動クラスター
クラスター長名	久保 智之

1. 活動内容・達成目標・研究成果

Mission/Vision			
<p>人文・政治・経済を包括する人間の営みとしての文化変動を、アジア各地を対象として、長期的視野で分析・検討する。また、ヨーロッパなど世界の他地域も対象として、アジアとの対照研究を行う。これらの分析・研究によって、解決すべき社会的課題が生み出される文化的背景を明らかにするとともに、それらの課題の解決のための糸口を提示し、また新たな課題を発掘する。</p>			
担当モジュール	具体的な活動内容	2020年度中の達成目標	2020年度中の研究成果(達成状況)
情報モジュール	2019年度に行なった情報ガバナンスに関する研究を継続する。	2019年度の国際シンポジウムを発展させ、情報ガバナンスに関して、教育も視野に入れた国際シンポジウムを開催する。	新型コロナ感染症拡大のため、国際シンポジウムの開催はできなかったが、医療・健康クラスターと共催で、情報ガバナンスに関するシンポジウムを開催した。
文化遺産モジュール	中国社会科学院考古研究所及び台湾中央研究院・歴史語言研究所から研究員を招聘して、気候・環境変動と歴史遺産に関する研究会・シンポジウムを開催する。	中国社会科学院考古研究所及び台湾中央研究院・歴史語言研究所との研究交流を深める。	新型コロナ感染症拡大のため、2021年度に延期した。この間、大陸との関係から、弥生時代の始まりや鉄器生産の開始に関して、研究を深めた。
アジア-日本モジュール	2019年度に実施予定だった国際研究集会「越境するアジア建築と美術」を開催。同じく、オスロ大学で日本学の講義を行う。	アメリカ、韓国、中国、ノルウェーを中心として、研究交流を深め、共同研究の基礎を固める。	2019年度実施予定の国際研究集会「越境するアジア建築と美術」について、International Young Research Workshop “Crossing Borders: Memory and Material in the Trans-Asian Context”としてオンラインで開催した。 さらに2021年3月には、当該テーマで、より規模の大きい2度の講演と国際シンポジウムを開催した。 2月17日には『ジャン・モネ CoE九州・第二期キックオフ・シンポジウム(ウェビナー) ブレグジットとEU統合のゆくえ』をEUセンターと共催した。

2. クラスター・モジュール研究教育活動状況

項目	件数
クラスター・モジュール主催イベント	2件
クラスター・モジュール共催イベント	8件
共同研究	0件
単著論文	2件
共著論文	0件
学会発表（国内）	6件
学会発表（海外）	5件
交流関係	0件
教育活動	0件
協定	0件
	件
	件